家畜技術情報

お灸で牛の受胎率アップ？！

根室南部事業センター　第一家畜診療課　獣医師　渡　辺　陽　子

『牛の受胎率を上げる』これは畜産経営においてとても大切なことであり、日々、様々な研究が行われています。繁殖障害というと、まずホルモン治療を思い浮かべる方も多いと思いますが、なかなか効果が現れにくい牛もいて、悩ましいものです。

先日、東京都農林総合研究センターが、人工授精後の牛にお灸をすることで、受胎率が上がったという研究結果をまとめ「ウシのお灸マニュアル」を発表しました。今回は、その内容についてご紹介します。

① 用意するもの

●みそ（こしたもの・1回約100ｇ）
●もぐさ（ひとつのツボに1ｇ：薬局・通販などで購入可）
●水入りバケツ
●頭と尾を固定するロープ等

② 方　法
（左のページを参照下さい）

③ 注意点

●頭と尾を固定する（舐めたり振り落とされたりすることがあります）
●慣れていない牛には味噌を多めに
●品種によっては注意が必要（ジャージー牛は火傷の跡が長く残ったそうです）
●夏でもお灸はできる（牛の体温が39.5℃を超えていなければOK）

火事に注意

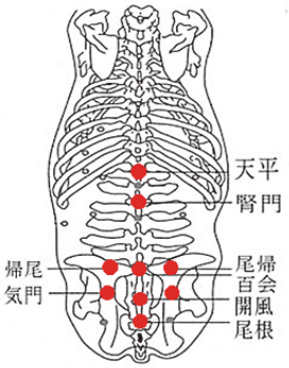
扇風機を使っている場合はもぐさが風に飛ばされないよう注意。
お灸が完全に消えるまでは絶対に牛の傍を離れない!!

別海町のとある農家さんも、このマニュアルに従いお灸を試しています。お話を伺ったところ「あずっている（3回以上授精しても受胎しない等）牛3頭が、授精1回＋お灸3日間で受胎した時には効果を実感しました。一方、受精卵移植後の受胎率向上を目指し、あずっていない牛にもお灸を試しましたが、こちらの効果は今のところはっきりとは実感できていません。この方法は、コストが安い（3日お灸をしても1頭当たり150円程度）けれど、時間と手間が少しかかるので（30分程度は牛の傍を離れられない）、忙しくない時期を中心に実施していきたいと思います」ということでした。

なかなか妊娠してくれない牛の繁殖をあきらめるその前に、一度、東洋医学のお灸を試してみるのもよいかもしれません。

実施方法

人工授精の7～10日後の
黄体開花期に、右図の
9つのツボに3日連続で
お灸をします。



天平：最後肋骨を辿った背骨との交点の後ろの点
腎門：天平の二つ後ろの点
百会：左右の腰角と背骨の交差する点
尾帰：百会から腰角へ8cm離れた点
開風：百会と尾根の中間の点
気門：開風から横に下りて、尾帰の後ろの点
尾根：尾を持って上下に動かして動きの止まる点

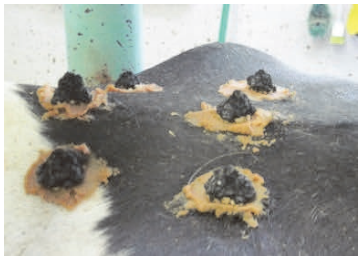
出典：保坂虎重・白水完児(1997)『家畜のお灸と民間療法』農文協

①頭と尾を固定する
カウクリップを使うと尾が上がらず便利です。

②9つのツボにミソを塗り(直径5cm程)、もぐさをピンポン玉大に丸めてのせる。

③もぐさに点火
煙が出れば、火はついています。

④お灸開始
火の管理に十分注意しましょう



⑤もぐさに点火してから10分程で燃え尽きますが、もぐさの中はまだ温かいです。

⑥15分後、もぐさが熱くなければお灸終了です。ミソと木を圧着させてふき取ります。

東京都農林水産振興財団 農林総合研究センター「ウシのお灸マニュアル」
http://www.tokyo-aff.or.jp/files/2017/pdf/tebiki_chikusan_manual.pdf より転載

お灸の温熱刺激→黄体への血流量増加→黄体ホルモン値増加

お灸が気持ちいいと「よだれ」「排便」「排尿」「反芻」などの反応が見られることも♪